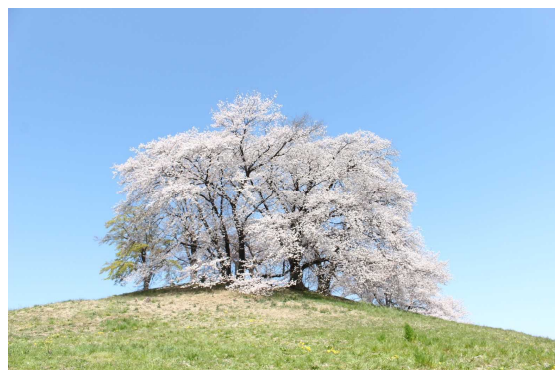




「有事人生」（人生とは様々なことに遭遇し、それを積極的に乗り越える体験を重ね、経験として身につけて生きていくことである）。

これまでの中学校生活を振り返ると、まさにこの言葉通りの日々だったのではないのでしょうか。そして今年は、中学校生活の集大成の1年であると同時に、中学卒業後の進路を決定しなければならない重要な1年でもあります。厳しい試練が待っていることもあるかもしれませんが、自分を磨くチャンスと捉えて地道に努力を重ね、実力を蓄えていってください。来年も、桜満開の春になりますように、皆さんを応援しています。



「あと一歩だけ、前に、進もう」

この進路通信のタイトル“Progress”は、「着実に進歩する、進展する」という意味です。スガシカオさんの曲で、耳にしたことがある人も多いかもしれません。その歌詞の最後にある「あと一歩だけ、前に 進もう」。誰だってつまずくことはあります。逃げ出したくなることだってある。でも勇気をもってあと一歩だけ、ちょっとだけ行ってみよう…。一歩ずつでも前に進むためにできることからやってみよう…。ほんのわずかでも進んだその一歩が、今まで以上に意味をもつ1年だから、「あと一歩だけ」をいつも心がけてほしい、という気持ちを込めました。これからこの進路通信を通じて、進路に関する情報をお知らせしていきます。必要な情報を見逃さないように、しっかり目を通してください。また、少しでも不安なことやわからないことがあれば、担任の先生や進路担当（中村）に相談してください。進路選択をするのは皆さんです。そしてその皆さんを、私たちは全力で支えていきますので、安心して進んでください。1年間、よろしくお願いします。

自分の今いる場所を知る



今、自分が行きたいと思っている場所を見たとき、自分がいる場所はどこですか。どんなところで。その場所が分らないと、どちらに進んでよいかわかりません。今何をすればよいのかもわかりません。自分の行きたい未来へ行くためには、まず自分が今いる場所を知り、何をしたらよいのかをしっかりと考え、行動することです。ときどき立ち止まって、自分の位置を確認することも大事です。違う方向に向かっていないのかを確認するのです。そして目指す場所に向かってひたすら努力をしてください。

「自分の今いる場所を知る」ために、年間7回の確認テストを実施します。以下の日程で実施を予定しています。1学期は部活動が忙しい時期ですが、「整理と対策」を計画的に進めて両立を図れるように心がけましょう。

回数	内容	日程
1	1年の復習	5月6日（金）
2	2年の復習	6月1日（水）
3	1・2年の復習	7月4日（月）
4	1・2年の復習＋3年既習総合問題	9月2日（金）
5	1・2年の復習＋3年既習総合問題	10月4日（火）
6	1・2年の復習＋3年既習総合問題	10月27日（木）
7	1・2年の復習＋3年既習総合問題	12月1日（木）

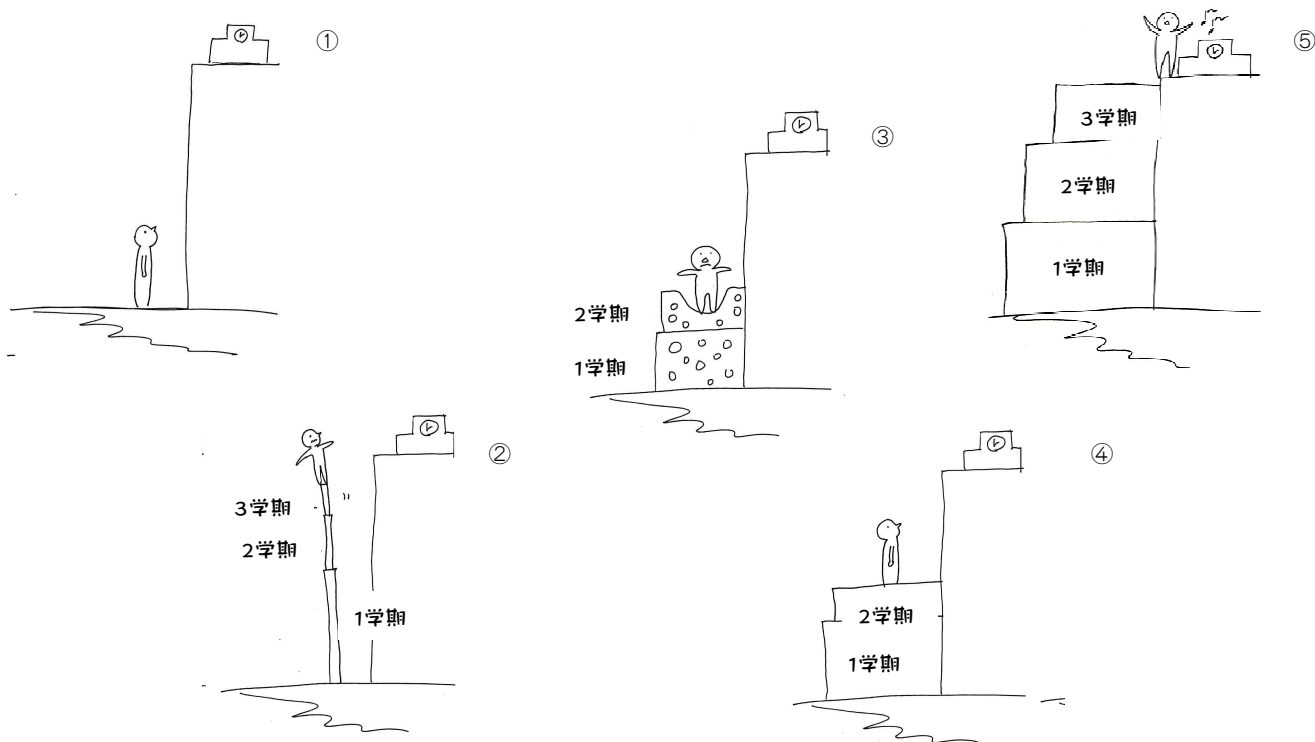
下記の日程で定期テストもあります。



定期テスト	日程
1学期期末	6月22～24日
2学期中間	9月30日
2学期期末	11月9～11日
3学期期末	2月6・7日

今のうちにしておくことは・・・

目標に手が届くためには踏み台が必要(①)。その踏み台を1学期、2学期、3学期と積み上げていく。では、どのような踏み台を作っていけばいいか。今、その踏み台はぐらぐらするようなものではないですか(②)。スポンジのような、乗ったらへこんでしまうものではないですか(③)。十分な高さはありますか(④)。今のうちに補強しておいてくださいね(⑤)。



保護者の皆様へ

生徒一人一人の能力や適性、個性はそれぞれ異なります。受験期で大切なのは、今よりも前進すること、そのために努力することです。どのようにしたら、今より向上できるか、前進するか、お子さまと一緒に考え、継続的に励ましたり助けたりしてあげてください。また、学校からの配付物(学年通信・学校通信・進路通信・通知表・確認テストの結果など)には必ず目を通してください。特に、体験入学や進路関係の情報などは、原則として進路通信でお知らせします。

なお、お子さまの進路に関して不安になった時や、疑問や要望がありましたら、積極的に担任や学年職員(進路担当・中村)に相談してください。1年間、よろしくお願いいたします。

ちょっとひとこと・・・

新型コロナウイルス禍の下での学校生活が続いています。感染予防対策をしながら、私たち大人は、いつになったら皆さんが自由に未来像を描けるようになるのだろうと、つまらないことばかり心配してしまいます。

が、たぶん大丈夫。アイザック・ニュートン氏が万有引力の法則を発見したのは、ペスト禍でケンブリッジ大学が閉鎖されていた時。日本人で初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹氏が中間子理論の端緒をつかんだのも、室戸台風で大学が休みの夜。世界の見方を変えるような新しい知見は、一見無意味な空き時間から産み出されていることが多いらしい。若い世代は有事の状況から何かを確実につかみ出してくる。

生徒たちも然り。世界を変えた偉人たちと同じように、生徒たちもまたこの閉鎖した状況の中から、必ず自分たちなりの新しい何かを見出してくるに違いない……。1日も早く新型コロナウイルスの拡大が収まり、生徒たちからいろいろな「発見」が聞けることを願っています。

